

発色方法 Color development method



加法混色 Additive color mixing

黒を下地とし、色を重ねるごとに白に近づきながら色を作り出していく発色方法。スマートフォンやPCのスクリーンにおける発色はこれにあたります。

R (赤)、G (緑)、B (青) の配分を変えていくことで、様々な種類の色を生み出します。

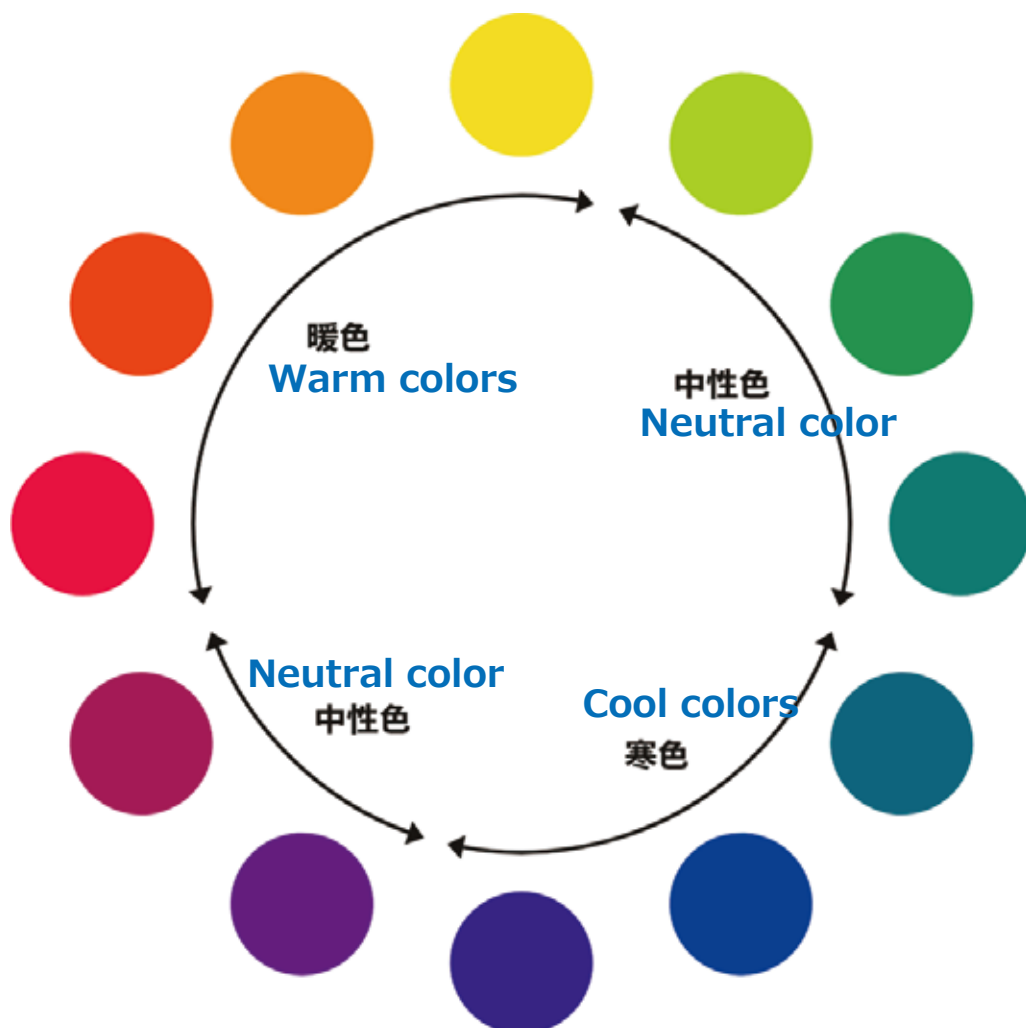


減法混色 Subtractive color mixing

白を下地とし、色を混ぜることで黒に近づきながら色を作り出し発色する方法。絵具やインクを使った発色はこれにあたります。

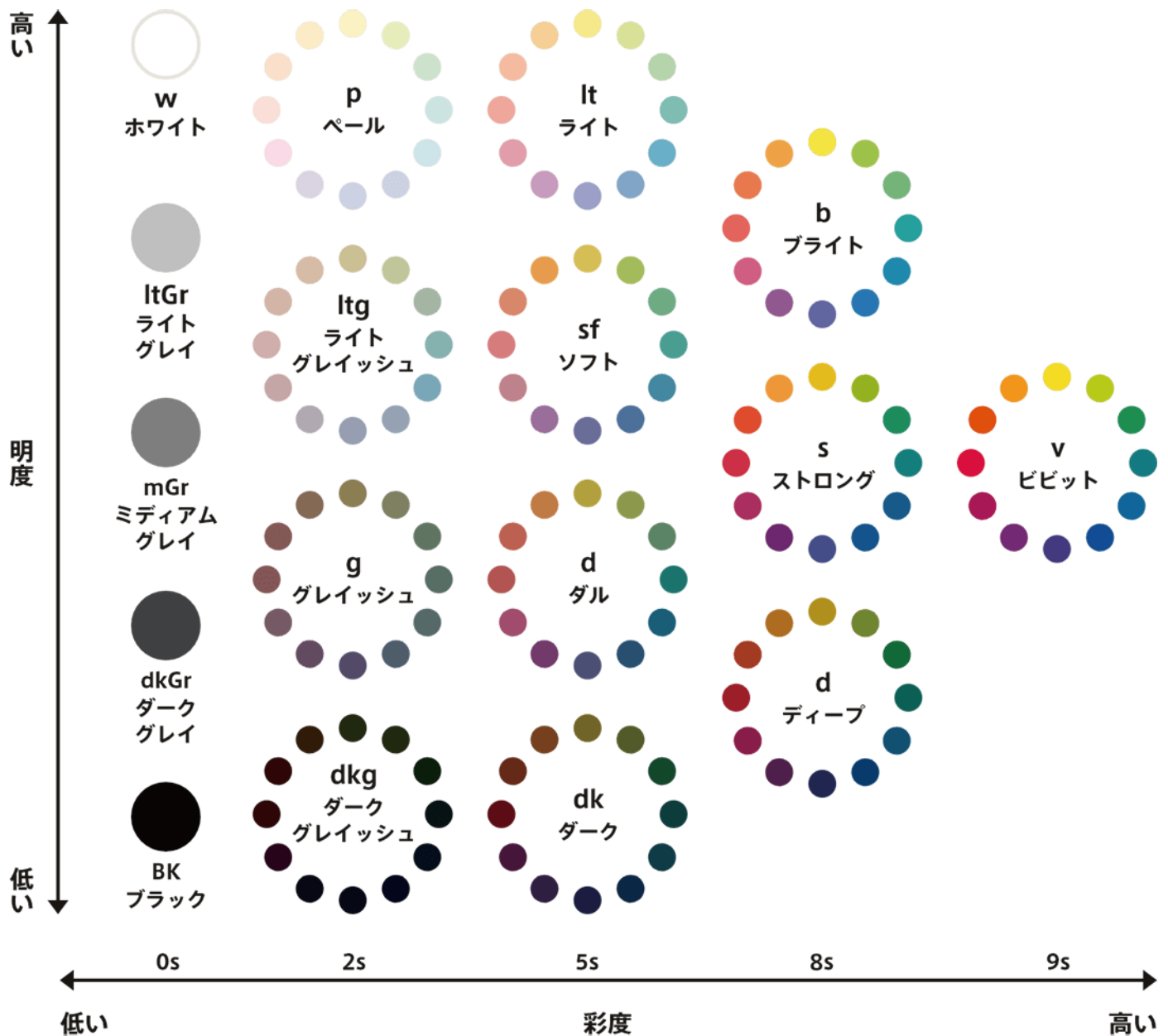
通常の印刷機の場合、C (シアン)、M (マゼンダ)、Y (イエロー)、K (ブラック) のインクを混ぜ合わせることで、様々な色を表現している。

暖色と寒色、中性色



トーン Tone

色には3つの属性があります。**色相**（色味）、**明度**（明るさ）、**彩度**（鮮やかさ）と呼ばれるものです。このうち、明度と彩度が同じ色相グループを「トーン」と呼びます。



デザインする時、色数はできるだけ少ない方がいい

色が難しくなるのは、たくさんの色を同時に使おうとするからです。

例えば、白と黒、白と赤だけの配色を見て、バランスが悪い、まとまりがない、と思うことはほとんどありません。しかし、そこに青や黄などが混ざってくることで、配色は難しくなります。

色をできるだけ使わないようにすれば、誰でもまとまりのある配色にすることができます。

配色のサンプルを見る

Color Hunt <https://colorhunt.co/>

4色の配色パターンが掲載されている配色パターン見本サイト